

12/21
五

イージス搭載艦 3731億円

24年度予算案 レーダー追加否認

防衛省は12月、2024年度当初予算案で、「イージス・システム搭載艦」の建造費として、ほぼ概算要求通りの37731億円とすると発表しました。木原稔防衛相と鈴木俊一財務相との閣僚折衝で決定しました。

これまで計上した関連経費を加えると、同艦の建造費は計約7840億円に上ります。2年前の想定より約1・6倍、出発点である陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アシヨウ」(陸上イージス)の導入経費と比べると、3倍以上の膨張です。

また閣僚折衝で、今後、イージス艦に搭載するレーダーの選定について「白紙的に検討を行う」と決定。イージス・システム搭載艦で運用する米軍需大手ロッキード・マーチン社製のレーダー「SPY-7」の追加調達を事実上否定しました。

SPY-7は、陸上イージスに搭載される予定でしたが、2019年に計画が破綻しました。しかし、当時の安倍晋三政権は延命策に固執。SPY-7を、艦艇に載せるイージス・システム搭載艦計画が持ち上がりました。背景には、ロッキード社

大幅に膨脹しました。

10月の財政制度等審議会(財務相の諮問機関)では、艦艇へのSPY-7搭載は、世界でも例がないと指摘。米海軍の次期イージス艦では別のSPY-6レーダーを採用する予定であるため、SPY-7調達には「スケールメリット(規模の拡大による財政効率の向上)」が働きにくい」と問題視していました。